

2024 年9月 19 日

第 37 回日経ニューオフィス賞「ニューオフィス推進賞」を受賞

第一生命保険株式会社(代表取締役社長:隅野 俊亮、以下「当社」)の日比谷本社(第一生命日比谷ファースト内)は、日本経済新聞社と一般社団法人ニューオフィス推進協会(NOPA)が共催する第 37 回日経ニューオフィス賞(*1)において、「ニューオフィス推進賞」を受賞しました。2024 年度は、歴代で2番目に多い 153 件の応募の中から、16 件が同賞に選出されています。

日比谷本社は、「つながる Well-being オフィス」をコンセプトに掲げ、マッカーサー記念室に代表される、戦前最後の現存する歴史的建造物としての重厚感を生かしながら、2024 年3月に大規模リノベーション工事を経て誕生した新オフィスです。

当社は、変革をさらに加速させ、2030 年を目途に第一生命グループが目指す姿(「グローバルトップティアに伍する保険グループ」、「保険業の未来を先導する存在になること」)の実現を目指していきます。



【新オフィスのポイント】

- 歴史的価値のある建物を残しつつ、オフィス内をダイナミックに再構築し、歴史との融合が図られている
- 社内外のワーカーが交流する場として皇居に面したサードプレイス(*2)「LOFFT(*3)」を構築し、入居している企業との中長期的な共創/協創取組みがスタートしている
- 「建て替え」ではなく「リノベーション」を選択したことで、環境負荷を抑え、社会・環境のサステナブル・ウェルビーイングを追求している
- 社員参画型でオフィスづくりが行われ、完成後も社員と共同で継続的にオフィス環境を改善している

(*1)ゆとりと豊かさの実現や、知的生産性の向上や知識創造の活性化に資する「ニューオフィス」づくりの普及・促進を図ることを目的に、快適で機能的なオフィスを表彰するもの。<https://www.nopa.or.jp/prize/index.html>

(*2)プライベートな空間や社会的な空間とも異なる、居心地の良い第三の場所。

(*3)ON~OFFを個人が自由に選択しすぐす LOFT(屋根裏)と OFF(休息)を掛け合わせた造語。

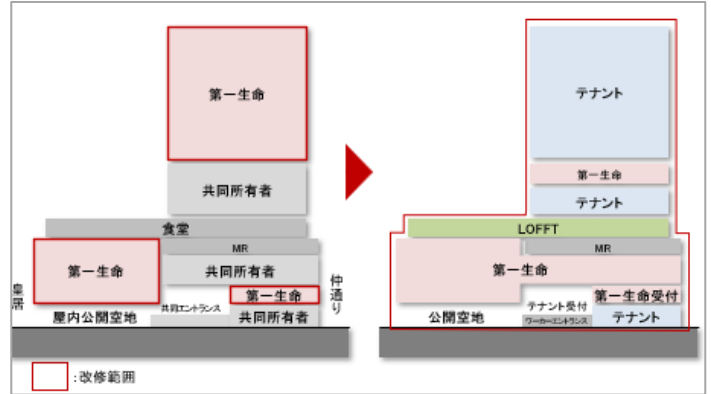
【新オフィスの特徴】

1. 職位・組織を超えた強固かつ柔軟なつながりを創出

～メガプレートの構築、エリアアドレス型 ABW の採用、交流エリア「Street」の設置～

社内のつながり強化に向けて、フロア構成から見直しています。新館における使用フロアを低層階へ変更し、メガプレート(*4) (約 3,600 m²) を構築することで、関連性の高い部署を同一フロアへ集約しました。

また、社員の自律性とチーム単位での業務効率性を両立させた「エリアアドレス型 ABW(*5)」を採用し、フロア中央には、交流を促進する「Street」を設置しました。



さらにフラットな意思疎通を活性化させるべく、役員にもエリアアドレス型 ABW を採用しています。

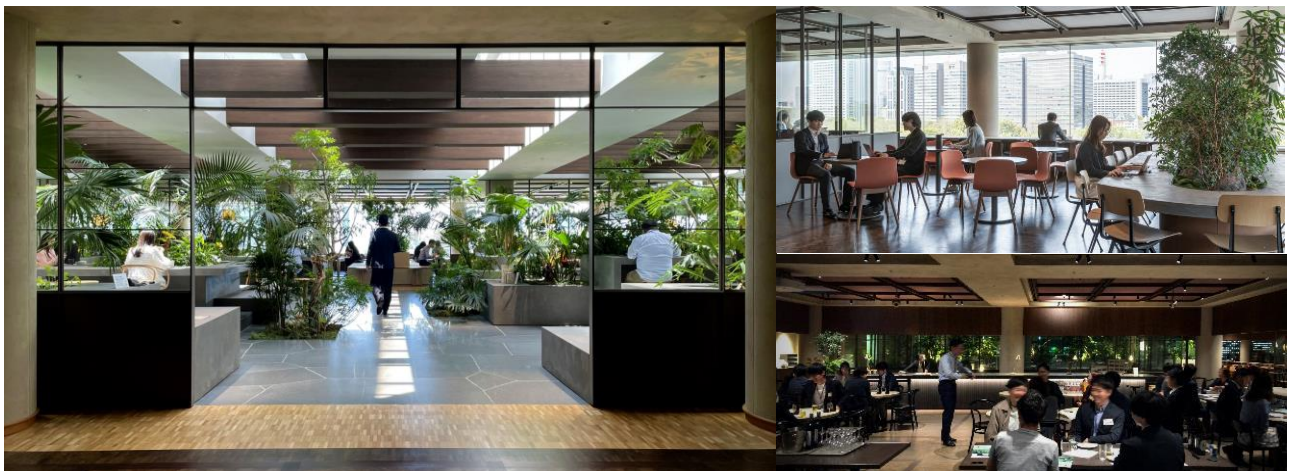


2. 異文化・異分野の人を交差させ、新たな価値創造を後押し

～交流するサードプレイス「LOFFT」の構築、共創/協創取組みの推進～

社外とのつながり強化に向けて、「当社が入居する低層階」と「他企業が入居する高層階」の中心にある旧食堂を、社内外のワーカーが交流する場「LOFFT」として再構築しました。

さらに、LOFFT を起点として、コミュニティ基盤を作り、新ビジネス創出等の新たな価値創造を目指す「共創/協創取組み」を館内に入居する企業とスタートしています。



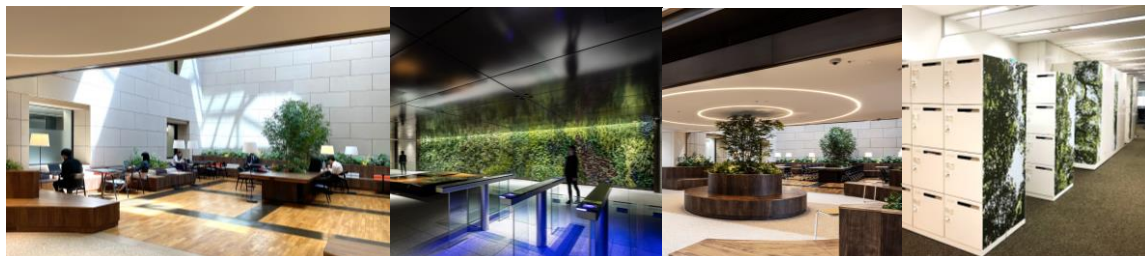
(*4) 社会関係資本(人と人とのつながりを資本として捉える考え方)の強化を目的とした、面積が非常に広いフロア。

(*5) 部署ごとにエリアが割り当てられるとともに、業務内容に応じて自由に場所を選択できる働き方。

3. 社員の Well-being 実現に向けたオフィス環境づくり

～WELL 認証プラチナの取得(国内金融機関初)、パンデミックレディ適用～

社員の健康につながるオフィスづくりにも拘りました。その結果、国内金融機関で初めて「WELL 認証プラチナ(*6)」を取得し、感染拡大防止を目的に開発された「パンデミックレディ(*7)」を国内で初めて適用しました。



4. 環境・地域・社会の Well-being 実現に向けた取組み推進

～CO2 排出の大幅抑制、LOFFT・1階公開空地を通じた地域・社会への貢献取組み～

「建て替え」ではなく「リノベーション」を選択したことにより、約 77,200t(森林約8万 ha 分の年間吸収量に相当(*8))の CO2 排出抑制にもつながり、環境負荷の大幅軽減を実現しています。

また、自治体等と協働し、LOFFT で地域の課題解決に繋がる特別メニューを提供する等、地域貢献も推進しています。その他、1階を公開空地として一般開放し、美術展や音楽会等の文化イベントのほか、千代田区との協定に基づき帰宅困難者受入施設とすることで、地域の防災力向上にも貢献しています。

5. 「つながり」と「セキュリティ」の両立

～社員と来客者の動線分離～

テナントビル化にあたり、ビル全体のフロア構成も見直し、応接フロアを高層階からエスカレーターでアクセス可能な2階へ移設したほか、1階に社員用のエントランスゲートを新設し、社員と来客者の動線を分離しました。

6. 社員参画型でのオフィスづくり

～若手ワークショップの開催、Web アンケートによるモニタリング、完成後の検討会～

社員参画型のオフィスづくりに拘りました。若手ワークショップ(全7回)や Web アンケート(回答者数 3,100名、回答率 78%)を通じて社員のニーズを把握するとともに、役員や部長との個別対話を重ねながらレイアウトを策定しました。若手ワークショップでは、「当社の目指すべき働き方・オフィス」について、ワークショップメンバーから経営層へ提言を実施しています。

また、新オフィス完成後も、社員のより働きやすいオフィス環境の構築を目指し、Web アンケートを繰り返し実施し(回答者数 延べ 8,000名)、各部からリノベーション担当者を選定のうえ「検討会」を開催する等、継続的にオフィス環境を改善しています。

【「ポストコロナ時代のウェルビーイングが高まるオフィスビル」をコンセプトにした日比谷本社ビルの本格リノベーションの開始について～新ビル名称は「第一生命日比谷ファースト」～】

https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2022_003.pdf

(*6)建物環境が人の健康やウェルネスに及ぼす影響に注目した建物認証基準。(https://www.dai-ichi-life.co.jp/company/news/pdf/2024_001.pdf)

(*7)感染拡大防止を目的とした建築評価基準。(開発:順天堂大学堀教授、清水建設)

(*8)林野庁「森林による二酸化炭素吸収量の算定方法」に基づく試算。